

## 2025年度 第2回 定期理事会 議事録

2026年1月21日

書記 事務局長 紺野祐樹

日時 2026年1月21日(水) 10時30分～17時

場所 0. GARDEN 2階 個室AB

### 1 開会宣言

中村業務執行理事の宣言により定時に開会

### 2 代表理事 挨拶

寒波のねぎらいとカンファレンスの準備を整える旨の挨拶があった

### 3 議長指名

議長：規定により中村業務執行理事

書記：紺野

議事録署名人：高田、野田

### 4 議決権数確認

総理事数 8名

出席理事 8名

監事

出席：高屋監事

欠席：山内監事

### 5 報告事項

2025年度事業報告書（案）参照

関連質疑・確認事項

#### 教育普及委員会

- ・全国 SRP は予定より 1 会場減（想定していた公認スクールの開設申請が間に合わなかったため）
- ・SRP 講師について、新規取得者の確認を行う

#### 安全対策委員会

- ・カヌーワールド記事の嘉藤さん、辞退の意向。執筆者を探す（安全対策委員会）
- ・ヒヤリハットや会員専用 HP の入り口等は、案内しているのか（堀川理事）  
→事務局で行っている
- ・新規公認：ビルド、ラバーズ、グラビティ、水日和
- ・申請書類提出：バイファール、ラパン
- ・新規申請準備中：北海道（微妙）、長野飯山、宮城南三陸
- ・公認スクールの新規取得資格について、安対委員会で掌握して広報委員会へ
- ・ヒヤリハットは取りまとめ中

#### 広報委員会「

- ・新規公認スクールを全て紹介をしなかった。これから行う。申請時に HP が無かった事業者は、掲載が遅れる。

#### フィッシング部会

- ・海保との SUP フィッシングに関する渉外業務については、アドバイザーからの提案ができるので、なにかやるときは一報ください。（山口）

## 6 社員総会議案

### 社員総会提出のための理事会案作成

収支報告案に関しては監査が終了していないので収支報告の確認のみ

#### 第 1 号議案 2025 年度事業報告案

要修正箇所修正後、メール審議

#### 第 2 号議案 2025 年度収支報告案

監査未了のため、後日メール審議

関連質疑・検討事項など

- ・赤字の要因である、アドバンスト課程、ガイド課程の開催方法は、このままで良いのか議論

・受験者減少の要因を探す、赤字を理由に検定会を減らすのは、本末転倒では、課程の技術的な難易度が大きい、統計処理が必要などの意見が出た。

→開催箇所を減らし、協会主導のベーシック検定を1会場（関東周辺）で行う方向。

◎受験者増加の施策を行う

- ・ベーシックの検定会見学の周知（ベーシックインストラクターも見学OKをアピール）
- ・地元の新聞等、広報の強化
- ・リール動画、ショート動画での広報（検定会の流れとか雰囲気伝える）
- ・会員を増やしたい→事業を始めたい人、事業を行っているが資格がない人をターゲット

に、

・国交省を通じて、内水面の事業者の安全管理状況を探る→ダム湖の管理団体へのアプローチ

→地道に管理者を探して、アプローチが必要

→管理者の形態は様々なので、多角的アプローチが必要

- ・地元のスクールからのアプローチ、渉外業務（上流）からのアプローチが必要
- ・退会者を減らす工夫も必要（検定後の関わりが重要）
- ・検定会中止時の補償について、委員会で見直しして理事会に提案する（キャンセル規定）
- ・ガイド課程について、あたりをつける工夫

→正会員へのヒアリング

### 第3号議案 2026年度事業計画案

「パドルプライド」の趣旨説明（山口）

- ・1次的価値と2次的価値の両輪を回していけるような体制作り
- ・地域貢献

### 理事会

2026年度の活動方針等への追記を検討

- ・受験者増加
- ・協会主導のベーシック検定会の開催
- ・事業者向けセミナー開催
- ・協会主催の事前講習会
- ・地域ブロックでの会員研修会開催のサポートについて、わかりにくい（森井）  
→補足を入れる（中村）

### 広報

●JSPA 安全啓蒙雑誌 作成

\*堀川&フィッシング部会本橋 担当

●JSPA HP に、行政向けのページ作成

\*高田担当

●JSPA HP に「インストラクター/ガイドになるためには」のページを独立

\*堀川、楠担当

●JSPA パンフレット/HP に新規公認スクールを追加

\*ラバース、水日和、WEST 三条店? (Build、グラビティは掲載済み)

\*堀川、楠担当

●安全対策委員会と協力して、JSPA HP の公認スクール一覧ページ所有資格の更新

\*担当 堀川、楠

●JSPA HP に環境保全ツアーのページを掲載

\*堀川、楠、& 環境委員会 紺野 担当

●協会主催 ベーシック検定会、アドバンス検定会の動画撮影

その様子を動画を作成して JSPA Youtube チャンネルに登録、JSPA HP に動画のリンクを貼り付ける

\*可能であれば 2026 年度に、難しいようであれば 2027 年までに

\*担当：堀川

●JSPA HP NEWS ページ 随時更新

新規公認スクールインタビューも含めて、情報更新を図る

\*楠、東野、太田 担当

●JSPA Facebook Instagram 随時更新

\*楠、東野、太田 担当

●実績報告・アンケート

\*担当 楠

環境

・委員の追加を検討

・L1 コースはアンケート後に開催の詳細を決定。需要がなければ開催しない

フィッシング部会

- ・パドルフィッシングセーフティミーティングの予定について

→関東を予定

◎パンフ作成を最優先で行う

事務局

- ・申請書類のオンライン化を進めます

北海道で SUP にかんする安全会議が海保呼びかけで設立の動きがあり、北海道内の会員で対応したい。(森井) →理事会了承

第 4 号議案 2026 年度予算案

- ・収入見積もりが過大では無いか
- ・協議事項確認後に修正しながら議論
- ・入会を 80 名に下方修正
- ・検定関連予算組み直し
- ・パンフの更新頻度を上げて部数を減らす

上記議論を経て、予算の組み直しや支出の見直しを行い、原案修正後全会一致で可決

## 7 協議・検討事項

○カンファレンスの日程と担当の確認

- ・日程確認（要項の通り）
- ・司会進行は、野田・中村
- ・委員会の活動報告は、委員長。委員長不在時は代理。
- ・会員研修会 中村、代表者会議 野田、代表者研修 早川・CPR：紺野 他：中村

○賛助会員に関して

団体法人の賛助会員を募っては？

- ・三役案は、法人の口数も 1 口以上で特典を付ける  
→メーカー/インポーターとしては価値が無い（堀川）
- ・協会 HP の検索は、検定受検者が多い。自社 HP の 1/10 の検索数。（堀川）
- ・商業ベースではないことが良いと思っている。
- ・注力しなくて良いのでは？

- ・ google 広告に勝る費用対効果を出せるのか？
- ・ インポーターが減っている現実もある。
- ・ 渉外業務として費用対効果が出せないと思う。

→パドリング関連ではない法人へのアプローチもある（中村）

→イベントに物品を提供するなら検討する

→費用対効果もあるけれど、業界に対するフラットさを出していくために、取り下げます  
（山口）

→一般社団法人にとって、賛助会員は設けた方が良いのか（森井）

物品提供に対して、バナー等を掲載するのは有だと思う。御礼としての関わり。

→労力に見合わない。現状維持。（高田）

◎現状のままとする

○協会の日

パドルスポーツの記念日的な物を設定してはどうか？

→継続審議。日にちを決めよう

○仮称) ウェルネスツーリズム部会設置に関して

◎仮の担当理事：野田、森井

◎部会が協会に求めることを明確にし、判断する。

◎担当で詳細を詰める

○日本在住の外国人が受験を希望した際の対応

山では外国人のガイドが多く入り込み、国内資格が埋もれている。国際基準では無いのだが、アメリカの資格が国際基準かのように行政サイドでも扱われている。JSPA は、外国人が受験する際都度委員会で話をして対応を決めている。今後、外国人の受験希望者の増加が見込まれるので、協会としての方針を決めておく必要があると考える。（中村）

既存のスクールが外国人を雇用する場合も、日本語ができないと受験できないのが現状。  
（本橋）

RAJ は？（本橋） とっている（中村）

資格付与の後は、どうなるのか（高屋）

→日本人と同様と考える（中村）

留寿都では、外国人のインストラクターの評判が良くない。インストラクターの資質が維

持できるのか？（高屋）

資質に関しては、可否の判定に含めれば良い（堀川）

保険に関しては、要確認（堀川）

◎門扉を開いていることを示すため、英語版の検定テキストと問題を作成（データ版）。  
（教育普及委員会）

◎統一見解

外国人の受験は妨げない。

合格後の扱いは日本人と同様。

英語対応できる検定員が開催する。

協会の手続き等の言語は、全て日本語になることを事前に了承してもらう。

協会扱いの保険の適用について、確認する。（中村業務執行理事）

○2026 全国 SRP に関して

昨年と同様で良いのか、変えた方が良いのか？

→継続して開催していく。

○検定制度に関して

特に、アドバンスト課程受検者の、知識や技術の格差が大幅に拡大している。

アドバンストの受験資格にベーシック資格の取得を加えたい。

・事前講習を必須にしては？（森井）

・既存事業者ベーシック受験をしてもらうのは忍びない（堀川）

・現状、講義が被っている。アドバンスト課程の講義をより良くできるのもメリット。日程も減らせるかもしれない。SRP の受講は無しにしたい。（中村）

・長期計画が必要。（森井）

◎2026 年度は、事前講習受講又は一般会員であることを受験資格とする。

関連するガイドラインや規定の整備→教育普及委員会

○公認スクールの活動領域とスタッフの資格に関して

代表者の資格が活動領域になっているが、活動領域について、個人資格に紐付けられるようにしたい。

そうすると、A 公認・B 公認の区別が意味が無くなる。

→区別があった方が良い。モチベーションにもなる。(森井)

→対外的には違いが見えてこない。ガイド含めて対外的にもっと箔がつくようなシステムがほしい。(高田)

◎A/B の区分については、代表者の所持資格で無く代表者を含めたスタッフを含めて区分する。

今後は、有資格者以外の指導活動を認めない。ガイド所持者のプレミア表記を含めて検討。

◎安全対策委員会で規定の改正を検討

○安全啓発の冊子作成の進捗状況 (担当：本橋、堀川)

共有済

○各委員会の委員に関して

環境委員会 増員したい

フィッシング部会 2名の増員を予定

○カンファレンスの開催時期

・2月が繁忙期の会員もいる。(森井)

今年は昨年より一週間早かったので、来年は昨年より一週間遅くても良いのでは？

→様々な意見があるが、柔軟に日程を変化させることで理事の意見が一致。

◎2027年は3月2～3日カンファレンス 4～5日ベーシック検定員研修

## 8 次年度の会議等予定

2026年度第1回定期理事会

三役会議

2026年度第2回定期理事会

代表者研修会

社員総会

◇理事会運営体制

・1月理事会：前年度の報告と次年度の予算、協議

・4-6月：三役会議開催、理事会議案作成

・6月理事会：修正を要する事業計画、次年度のビジョン・事業計画

- ・10月委員会事業計画・予算要求
- ・11月三役会議：収支確認、次年度資金計画、予算案原案作成
- ・12月MLにて予算案理事会承認、委員会へ内示